

未来への希望を育む

岐阜市立岩野田中学校 3年

堀 萌々華

「私も先生みたいな人になりたい!」私はこの言葉をかけてもらった時、胸がいっぱいになりました。この言葉は、私が中1の夏休みに職業体験をした時に、そこの保育園に通っていたある一人の女の子にかけてもらった言葉です。

私には保育士になりたいという夢があります。大変なところもありますが、保育士という仕事は、まだ小さい、これからの未来ある子供たちを育てる、やりがいのある仕事だと思っています。私は、たくさんの小さい子供たちに、将来やりたいことややりたいものの、未来への希望を与えられる人になりたいのです。

しかし、この頃ニュースで「不適切保育」の報道がされているのをみかけます。「不適切保育」とは、保育者が子供に暴行を加えたり、世話をせず放っておいたりなど、子供に対してひどい行いをする事です。不適切保育をすると、子供の健康や発達に悪影響を及ぼします。そのニュースをみるたびに、「まだ小さい子供なのに…」と私の心は痛みます。その被害にあった子供たちは、どんなに辛い思いをしていたことでしょう。子供を保育する時、たくさんの子供を少ない人数で担当します。そのため、保育する側もストレスがたまって、子供にあたってしまうのです。子供にそのような行為をしてからも、罪悪感や後悔で余計にストレスがたまり、不適切保育が繰り返されることもあります。つまり、お互いに辛い思いをしているのです。「そんな思いをする人をなくしたい。」今自分にできることはないか、自分がどうしていくことが大切なのかを考えるようになりました。

そんなことを考え、参加した職業体験。私は最初、「希望を与える」といっても、どうしたらいいのかわからず、とても緊張していました。ただでさえ、保育士は大変な仕事だというのに。実際に子供たちに会ってから、自分はどのくらい動けばいいのかわからず、ただ遠くから様子を見ているだけでした。そんな時、一人の女の子が「絵本読んで!」と私のところにきてくれました。困っていた私に声をかけてくれたのです。その女の子の姿で、私はとても勇気づけられました。「私なら大丈夫。絶対にいける!」私は「希望」を与える、第一歩を踏み出しました。それからは、あの女の子のように積極的に子供たちとコミュニケーションをとるようになりました。水遊びでいっしょに遊んだり、給食をなかなか食べることができない子に食べさせたりして、子供たちの笑顔をたくさんつくるようにしました。そして、体験がおわろうとした時、かけてもらったのがこの言葉です。「先生、たくさん遊んでくれてありがとう!私も先生みたいな人になる!」あの女の子でした。本当に嬉しかったです。子供たちと別れる寂しさと、子供たちに希望を与えられることができた嬉しさが混じり、涙となって溢れ出しました。

体験では、保育士の方たちが、少ない人数でたくさんの子供をみていた姿がありました。「子供をみる人数を増やせば、誰も辛い思いをしないんだ。」これが「不適切保育」をなくすための私の最初の考えです。しかし、体験を通して私の考えは変わりました。どんな時も、子供たちとコミュニケーションをとって、笑顔を増やしていくことができたなら、子供たちに将来や未来に対しての「希望」をもってもらえるのではないかな。それは、自分の自信にもつながってくるのではないかな。これが職業体験で学んだことです。私は本当に体験をやってよかったなと思っています。まずは自分が相手を大切に、今できることをし続けます。辛い思いをする人をなくし、希望を与えられる。そんな人に私はなりたいのです。